

message

佐 藤 宗 太

あ	言	が	だ	夫	が	戦
る	葉	る	想	か	最	火
。	と	。	い	ら	愛	の
	は		は	妻	の	森
			、	へ	妻	で
人			や	、	に	傷
が			が	時	送	を
生			て	を	る	負
き			奇	越	手	つ
る			跡	え	紙	た
意			へ	て	。	兵
味			と	紡		士
で			繋	い		

T…1944年

太平洋戦争の最中、怪我を負い薄

暗い森林の中をボロボロの姿で彷徨

っている並木稔（なみきみのる）。

息も上がり、足の怪我の影響で思

うように歩けていない。

数秒の間歩き続けるが、体力が尽

きて木にもたれかかる。

稔 「はあ…はあ…はあ」

息が荒い。

ズボンのポケットから革製のメモ

帳を取り出す。

メモ帳に挟まった、妻である並木

久子（なみきひさこ）との写真を

見る。（結婚式の撮り）

稔 「…（会いたい）」

胸ポケットから万年筆を取り出し、

メモ帳に手紙を書き始める。

一年後。

台所で娘の並木照子（なみきしよ
うこ）をおぶりながら料理をして

いる久子。

玄関の扉がノックされる音が聞こ
えてくる。

久子「はい」

料理の手を止め玄関に移動する。

久子、玄関の扉を開けると正装の
男性が一人立っている。

男性「並木久子さんでしうか」

久子「はい、そうですけど」

男性「並木稔さんからお預かりしたものを
お届けに参りました。」

男性、革製のメモ帳を久子に渡す。
驚く久子、急いでメモ帳を開く。
表紙には二人の写真が挟まってお

り、何枚かページをめくり稔が書いた手紙を見つける。

男性、その場を後にする。

久子、男性が帰ったことに気がづかないまま手紙を読みはじめる。

稔（手紙）「久子へ。元気にしているか。」

手紙の字は線が震えていて、決して綺麗な字とはいえない。

稔（手紙）「俺にはもう、君が好きだと言ってくれた字も書けなくなっていることが残念だ。」

今はまだ何かと不自由もあると思うが、どうか身体を大事にしてほしい。」

戦時中に戻る。

木にもたれながら手紙を書いていく稔。

稔（手紙）「君のことを考えない日はない。」	4 回想 稔の自宅 玄関 （夜）	扉を開け入ってくる稔。 洗濯物を抱える久子と目が合う。 久子、微笑む。 久子「お帰りなさい。」 稔、微笑む。 稔「ただいま。」 稔（手紙）「帰れば君がいる。」 微笑む久子。 稔（手紙）「笑顔で出迎えてくれる。あの日常が戻ることがいつも願っているが……」	5 森林（夕）	戦時中に戻る。 木にもたれながら手紙を書いてい
------------------------------	--------------------------------	---	-----------------------	---------------------------------------

8 回想 稔の自宅 居間 （夜） 食卓を囲んでいる稔と久子。 久子、箸を置き稔の手をとる。 稔、急なことで不思議に思い、箸	7 回想 写真館（昼） 青空の下に広がる菜の花畑を歩いている稔と久子。	6 回想 菜の花畑（昼） 稔（手紙）「どうやら叶わないようだ。 久子、生きてくれ。」
--	--	--

を置く。

久子、稔の手を自分の腹部に当てる。

稔（手紙）「大丈夫。君とお腹の子は最後まで俺が守る。」

稔、数秒間考え、あることに勘づ

き子供ができたのかと尋ねる。

久子、頷く。

稔、尚子を抱き寄せ、二人で喜ぶ。

稔（手紙）「だから、生きてくれ。」

久子の実家 玄関先（昼）

現在に戻る。

久子、玄関先で座りながら目に涙を浮かべ手紙を読んでいる。

照子、久子の背中で穏やかに眠っている。

稔（手紙）「この先もずっと、戦争のない時を生きてくれ。」

久子、涙が溢れ出す。

10

森林（夕）

戦時中に戻る。

木にもたれながら手紙を書いて
いる稔。

メモ帳に書いた“生きてくれ”の
文字の横に雨粒が落ちる。

次第に雨が強くなりメモ帳を
懷にしまつて濡れないように抱え
込む。

11

回想 河川敷（昼）

川辺に座っている稔と久子。

結婚前で二人とも少し若く見える。

稔、緊張した面持ちで川を見つめ
ている。

久子、何かを待っているような様

久子「冗談ですよ（笑）」	稔「えっ！」	久子「このまま流れて帰ろうかな！」		久子「立ち止まり川を見つめる。」	だから初めて来た感じがしなくて。」	の川を下ったところにあるんです。	久子「最近知ったんですけど、私の故郷こ	稔「懐かしい？」	い」	久子「私もここ好きです。なんだか懐かし	二人の様子は変わらない。	川辺を歩いている二人。	×	×	×	稔「：少し、歩きませんか？」	稔、言葉が出てこない。	久子「はい！」	稔「あの」	子で川を見つめている。
--------------	--------	-------------------	--	------------------	-------------------	------------------	---------------------	----------	----	---------------------	--------------	-------------	---	---	---	----------------	-------------	---------	-------	-------------

稔 「…」

久子 「…」

数秒間の沈黙。

稔 は何か言いたげであり、久子は

稔 の言葉を待っている様子。

1 2

森林（夕）

戦時中に戻る。

雨が降りしきる中、メモ帳が濡れないように抱え込んでいる稔。

稔 「…（ああ、やっぱり会いたいな）」

稔（手紙）「別れの言葉を残したかったが、

すまない。一つわがままを言わ

せてほしい。」

稔、空を見上げ、ゆっくり口を開ける。

頬を雫に紛れて涙がつたう。

S # 1 1 の 続 き 。

川 辺 に 立 っ て い る 稔 と 久 子 。

稔 「 久 子 さ ん ！ 」

久 子 、 「 は い ！ 」

川 を 見 つ め て い る 久 子 、 振 り 向 き

期 待 の 眼 差 し 。

稔 「 あ の ！ 」

稔 、 言 葉 が 出 て こ な い 。

久 子 「 な ん で す か ？ 」

稔 「 い や ！ あ の ！ 」

稔 、 言 葉 が 出 て こ な い 。

久 子 、 待 ち き れ ず 。

久 子 「 ほ ん と に 流 れ て 行 っ ち ゃ い ま す よ ！ 」

久 子 、 川 へ 駆 け だ す 。

稔 「 結 婚 し て く だ さ い ！ 」

久 子 、 振 り 向 く 。

稔 「 ！ 」

稔（手紙）「君の中に希望を残してしまうこ

とを許してくれ。」

久子、微笑む。

稔（手紙）「必ず帰る。」

E
N
D